

口内炎の治療とお薬について

みなさんは、ほおの内側や歯茎などに痛みを感じる口内炎を経験したことはありませんか？口内炎は、特定の場所にできる場合には、歯肉炎、舌炎、口唇炎、口角炎などと呼ばれます。口内炎の原因は様々ですが、①粘膜を正常に保つためのビタミン不足、疲労やストレス、ウイルス感染や外的刺激などにより、タンパク質分解酵素の一種である「プラスミン」が発生します。②増え続けたプラスミンによって、炎症のもとであるヒスタミンや痛みのもとであるプロスタグランジンなどが出て、血管を拡張します。③炎症を起こすと血管からこれらの物質が漏れ出やすくなり、むくみが起こり、痛みが発生します。④炎症が続くと、粘膜の表面がただれてびらん様になり、ただれた部分がえぐられ、口内炎ができます。

口内炎には、アフタ性口内炎、ウイルス性口内炎（ヘルペス性口内炎・カンジダ性口内炎など）、カタル性口内炎などがあります。その中でも一番多いのが、「アフタ性口内炎」で、表面が白っぽくなりくぼみができ、周囲が赤くなり痛んだりしみたりします。頬など口の中を誤って噛んでしまった、ストレスや疲労、睡眠不足などによる免疫力の低下、ビタミンなどの栄養素不足、口腔内環境の悪化などが原因で、頬の内側、唇の内側、歯茎、舌など口内の粘膜にできます。

●口内炎の治療

他に持病がなく、口内炎が1カ所に限定してできている場合は、セルフケアで様子を見ましょう。生活環境の改善を行い、ビタミン剤（特にビタミンB₂）を活用して栄養バランスを整えるほか、つらい症状には内服薬・塗り薬・貼り薬・うがい薬などのお薬を活用しましょう。

＜市販薬＞口内炎の治療として販売されている市販薬のうち、代表的な成分として、トラネキサム酸、アズレンスルホン酸Na、トリウムシノロンアセトニドなどが挙げられます。



・トラネキサム酸（商品名：トラフル錠、ハレナース、ペラックT錠など）：
プラスミンの産生を抑制し、炎症や痛みのもとを抑えます。

・アズレンスルホン酸ナトリウム（商品名：クールスロート、コウナキッズ、サトウ口内軟膏など）：炎症している患部を覆い被さるように保護し、消炎作用で炎症を鎮めます。

・トリアムシノロンアセトニド（商品名：アフタッチA、口内炎軟膏大正クイックケア、口内炎パッチ大正クイックケア、トラフルダイレクトなど）：ステロイド成分であるトリアムシノロンアセトニドを配合した薬剤で、患部に直接貼るタイプや塗る軟膏などがあります。

・ビタミンB₂、B₆：ビタミンB₂が肌と脂質の代謝を助け、肌細胞の再生や成長を促進し、ビタミンB₆が粘膜を保護し、細胞の再生を助けます。

症状が口の中全体もしくは唇や口周辺へも広がっている場合、発熱や全身倦怠感を伴う場合、症状が10日以上続く場合は、感染症やほかの病気の一症状である可能性があるため、早めに医療機関を受診しましょう。

<処方薬>

・トリアムシノロンアセトニド（商品名：アフタッチ口腔用貼付剤 25 μ g、ケナログ口腔用軟膏 0.1%、ワプロン口腔用貼付剤 25 μ g（院外専用））：市販薬でも同成分のお薬の販売があり、患部に直接貼るタイプや塗る軟膏などがあります。

・ベクロメタゾンプロピオン酸エステル（商品名：サルコートカプセル外用 50 μ g）：ステロイドの成分を含有し、専用の噴霧用器具であるパブライザーにカプセルをセットし、患部へ直接噴霧するお薬です。その他、トローチ剤やうがいのお薬などもあります。

●口内炎の予防

偏った食生活によるビタミン不足で、口内炎が発生することがあります。緑黄色野菜たっぷりのバランスのとれた食生活を心がけましょう。また、サプリメントなどでビタミンB₂・B₆・Cを積極的に補って、免疫力を高めましょう。口の中の常在菌が増殖することによって、口内炎ができる場合もありますので、口の中を清潔に保つために、毎食後の歯磨きやうがい、口の中を乾燥させないようにするなど重要です。

お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には、医師又は薬剤師までご相談ください。

